

浪江駅西側地区共創会議 コミュニティ部会（第2回） 個別事業ワーキンググループ結果概要

日 時
場 所
参加者
グループ

2025.11.05（水） 15時35分-16時42分 ※コミュニティ部会第2部
浪江町防災交流センター会議室
共創会議会員44名（町民、事業者等）
第1回、第2回のアイデアピッチ発表者を仮リーダーとする5テーマ

個別事業ワーキンググループ（WG）のねらい

■個別事業WGの目的

- ・浪江駅西側地区のまちづくり具体化に向けて、地域の農業や観光、文化などの資産をフックにして、資金や技術、材料を供給する方（共創パートナー）を町外から誘致していきたい。
- ・WGを、地域課題を解決するために地元や企業などが主体となって行う実証実験等（リビングラボ）の共創パートナーを引き込むオープンイノベーションのきっかけにしたい。

■WG組成の考え方

- ・ピッチでは地域の課題やアイデアを発表いただいたが、WGの組成にあたっては、実施主体となる人、企業や大学の技術シーズ、マネタイズのための事業モデルの視点からテーマを決める。テーマに対して、どの段階でどんなプレイヤーが参加するか、映画で言う脚本、シナリオを作ることがWGのもとになる。
- ・グループワークでは自身の立場をある程度意識して明確にしてください。
- ・課題やアイデアを持つ方、事業主体になる方、関連する経営資源を持つ地元の方がまずマッチングして、そこに技術シーズを提供できる方、経営コンサルティングや広報の支援チームが加わって議論が深められればと思う。

■今後の展開のイメージ

- ・WGを進めていく上では、共創会議のアドバイザリーチームとして私や様々な金融機関、公的機関がアドバイスや補助金申請等の支援をする。実証実験を経て、事業化の段階に進むと駅西地区内にどのように拠点（店舗、インフラ等）をつくるかの立地計画に移っていく。
- ・1つのWGから2つ以上のプロジェクトができて良いし、逆にプロジェクト同士が一緒になっても良い。
- ・WGから派生して契約を結ぶようなプロジェクトに移行する際には、チーム内でグラドルールを作る。技術やアイデア、事業モデル等の知的財産の保護に配慮する。
- ・浪江だけでやる必要はなく、浪江は実験場にして、他地域への横展開で投資回収しても良い。



**浪江町共創推進
アドバイザー
廣常啓一氏**

（株式会社新産業文化
創出研究所 代表）

※第1部スピーチより

11月5日 浪江駅西側地区共創会議コミュニティ部会（第2回） 第2部 個別事業ワーキンググループ（WG）の概要

	仮称WG名	WGテーマの概要	特に参加を期待する業種等	仮リーダー （ピッチ等登壇者）	備考
a	燻製ラボ WG	間伐材や剪定枝などの多様な未利用木材を燻製チップとして有効活用し、新たな特産品づくりや燻製体験教室、レストラン等の6次産業化事業を検討します。林業・農業・飲食業・研究者などが共創する地域拠点施設「燻製ラボ」を設置し、樹種や燻製技術による香りや風味の違いを研究。地域産食材の燻製商品やオリジナルブレンドチップの研究、開発を通じて、未利用資源の価値向上と地域産業の新たな展開を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ・木材関係者 ・食品関係者 ・調理関係者 ・地域振興関係者 ・木材チップや燻製をテーマにした研究や技術、事業に関心のある方 	絆さくらの会 代表 小黒敬三 様	コミュニティ 部会第1回発表 者
b	思い出継承 まちづくり WG	災害や再開発により失われる建物や道具などを「ごみ」ではなく「思い出のツール」として捉え、リユースやリサイクルを通じて地域の記憶を未来へつなぐ取組を検討します。解体・分別・再利用の仕組みづくりを進め、古い建材を新たな建物や景観に活かすことで、懐かしさと新しさが共存するまちづくりを目指します。地域の団体や事業者、研究や技術者等の異分野が共創し、持続的な社会や地域、生活スタイルを目指すサーキュラーエコノミー（循環型経済）に貢献する事業モデルの創出を模索します。	<ul style="list-style-type: none"> ・設計、建築、解体、建材業界 ・インテリア、リサイクルリユース、リース、物流倉庫業界 ・物質材料等研究者 ・ランドスケープの研究者、デザイナー、アーティスト ・古材を内外装で活用する店舗事業者 	リサイクルギャラリー り庵 オーナー 石橋いづみ 様	コミュニティ 部会第1回発表 者
c	スポーツを 活用したま ちづくり WG	浪江駅西側地区にて、交流施設（一部FUKUSHIMA WWW.クラブハウス）×オンライン併設医療モール（仮）を拠点とした、Well-Beingなまちづくりとダイバーシティ&インクルージョンへの取組について検討します。駅西側地区はF-REIの建設により性別、年齢、国籍、価値観などの多様な個性が集う地区となります。様々な人が共助互助の関係性を構築し、個々の個性や能力が活かされる場づくりを通して地域住民と共に暮らしやすいエリアとするためのアイデアをみんなで気軽にディスカッションします。	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ、スポーツまちづくり ・健康関係、福祉/介護関係者 ・地域コミュニティ連携 ・医療関係者 ・上記設計・建築・施工関係者 ・地域拠点関係者 ・ダイバーシティ ・海外交流 ・F-REIとの連携 	READY SOCIAL 株式 会社 代表 佐藤夏美 様	コミュニティ 部会第1回発表 者
d	モビリティ WG	多様な小型モビリティを活用して浪江駅西側地区を中心とした交通課題の解決につながる事業モデルを検討します。域外から訪れる研究者、事業者、観光客、外国人をはじめ、住民、高齢者などの多様な移動ニーズに対応するシェアリングエコノミー（共有経済）の実現と、ゼロカーボンへの貢献を目指します。エリアマネジメントや観光事業者等との連携も検討し、サービスモデルの共創・実証を通じて、浪江町にフィットする仕組みを模索します。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施主体となり得る地元パートナー ・モビリティ関係者、交通事業者、旅行事業者 ・観光、地域振興関係者 ・地域拠点施設関係者 ・高齢者支援関係者 ・再生可能エネルギー関係者 ・交通DX関係者 	株式会社マスヒロ 代表 増子博之 様	
e	コミュニ ティFM局を 活かしたま ちづくり WG	多文化を学べる番組や地元の高校生による企業インタビュー番組などを配信する多世代多文化共生ラジオ局の開設を目指します。日常は町内外の住民、イベント運営者や公共機関、企業から得た情報発信を行います。有事の際には、避難行動の促進や被災状況など、町内に密着した情報を発信します。そのために、最新通信技術の開発とコミュニティ形成の仕組み形成について、町民の生活者視点とF-REIの学術的視点と企業の専門技術視点など多様な視点で楽しくアイデアを出し合い、他地域にいまだかつてないコミュニティFM局の創造を皆様と検討できると幸いです。	<ul style="list-style-type: none"> ・無線通信の技術などに知見がある方 ・浪江からアーティストを輩出したいと考えている方 ・浪江から新しいコンテンツづくりをしたいと考えている方 ・浪江町におけるコミュニティ形成を検討している方 ・他地域でも活かせるコミュニティ形成方法を考えてみたい方 	株式会社のちとぶん か社 取締役 葛西 優香 様	

a. 燻製ラボWG

※WG名は仮称

第1部「個別事業ワーキンググループについて」概要

■ 浪江町共創推進アドバイザー 廣常啓一 氏

- ・前回の小黑様のピッチで、桜並木の再生に取り組む中で剪定枝の処分や活動費の捻出の課題が発表された。
- ・これを基に日本の農畜産林業の課題に幅を広げて、付加価値化して横展開可能な事業シナリオを検討した。
- ・桜の枝をチップにして燻製に利用する事は珍しくないが、桜に限らず間伐材や果樹農家の枝など多様な未利用木材を集積し、異なる枝のブレンドや燻製手法による薫香の違いを研究するラボ、工房はこれまでにない。
- ・改質リグニン生産等で木材チップ、ペレット需要が拡大する木材化学産業からの素材供給、連携も考えられる。
- ・出口として燻製商品に限らず、レストランや料理教室等の体験サービスや観光の6次産業化につなげられないか。
- ・ラボのイメージは、世界中の花材やドライフラワー等を取りそろえた東京戸越銀座にある花屋の木材チップ版。

■ 絆さくらの会 代表 小黑敬三 氏

- ・今年で活動29年目。桜の手入れを震災前は仲間内だけでやっていたが、震災後も活動を続ける中で移住者や復興関係で浪江に来た方などが自然と集まり徐々にコミュニティの場になってきた。
- ・これから桜以上に燻製などを材料にして、農業を林業も漁業もどんどん繋げて、みんなが繋がったまちづくりが一緒にできれば面白いまちができるのかなと思う。
皆様の知恵をぜひお借りしたい。



a. 燻製ラボWG 対話概要

■参加者 絆さくらの会 小黒氏、他3名（町内事業者2団体3名）

参加者	WGテーマに対する発言概要
絆さくらの会 （小黒氏）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燻製事業については未開拓。燻製について廣常先生からアイデアをもらうまでは、考えてもみなかったが、可能性を感じている。燻製に知識を持つ人と共創会議で交流したい。イタリアは香水のまちとして有名だが、原料はイタリア以外から取り寄せている。このように、原料が浪江町に無くとも、燻製をコンセプトにしたまちづくりができると考えている ・ 共創会議では、燻製のベースとなる木材関連会社と交流したい。周辺地域も復興が進み、今後立入のできる場所も広がっているので、木材関連会社がさらに拡大していくと良い。 ・ 町内飲食店などの料理人も巻き込んで、薫りの立たせ方や合わせるとおいしい食材など助言してもらえる人とも交流したい。 ・ 漁業関係者に入ってもらえると良い。メヒカリなども燻製にしたらニーズがありそうだ。 ・ 周辺地域の酒造業者とも関わりたい。川内村のクラフトジンやワイナリー、富岡のワインなど酒資源は潤沢なのでどんどのコラボしていきたい。 ・ 田村市にハム工房もある。ハム関係も燻製に近いので、コラボできそうだ。 ・ 燻製を研究するというコンセプトで「燻製ラボ」を商品名にして、いろいろな燻製を試しに作ってみて試食会などができたらよい。 ・ 事業化にあたっては、食品衛生管理者の存在や食品販売上の法的規制調査が必要だろう。販売段階になればそのような点も留意したい。 ・ 燻製機械がまず初期投資としては必要。資金調達のアドバイザーとも交流が必要だ。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ●意見・情報提供等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 当社で木質チップを販売可能。燻製をきっかけとしたチップの新たな活用方法の検討意向 ・ 食べられる木質チップの開発企業との接点あり ・ 燻製がでない燻製シートなどの燻製商品ニーズ ・ 飲食業や木材関係の事業者マッチングに協力可能 ・ 木材チップを利用して食品を扱う際の法的規制、食品安全性の担保 ●提案等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣市町村にある燻製屋との連携可能性 ・ クラウドファンディングによる資金調達 ・ 農林水産省による食品関連事業者向け相談会への参加 ・ 物産館での販売によるニーズ把握

b.思い出継承まちづくりWG

※WG名は仮称

第1部「個別事業ワーキンググループについて」概要

■浪江町共創推進アドバイザー 廣常啓一 氏

- ・前回の石橋様のピッチで、町内で建物解体がさらに進み、元の景観が失われていくことへの思いを発表いただいた。
- ・これを全国課題の災害ゴミや廃棄物の活用に発想を広げて、サーキュラーエコノミーのまちづくりとして、建材等を思い出のツールとして再資源化することで、付加価値を生み出すことができるのではないか。
- ・解体ゴミを町の中でどのように流通させるのか、まちづくりにどう使えるか、どうすれば新たな材料に再生できるか、検討していく中で様々なチームが生まれるのを想定している。
- ・「サーキュラーエコノミー」は環境省や経済産業省が推進しており、ビジネスモデル化に当たっては国の補助金の活用も検討できる。

■リサイクルギャラリーリ庵 オーナー 石橋いづみ 氏

- ・例えば当店には着物などが多く集まっていて、壁紙への加工なども考えているが、私自身は職人ではないので非常に難しい。デザイナーや職人さんなどと連絡が取れると嬉しい。
- ・ゴミを減らすのが私の目標。ぜひ町内で営業する解体業者や建設関係の方々と、取っておきたいものを一緒に保管しておけるような地盤をつくりたい。
- ・当店は個人で営業しているため、リサイクル品をお預かりする場所が足りていない。蔵などを保管場所として協力していただける町民の方とも一緒に活動したい。



b.思い出継承まちづくりWG 対話概要

■参加者 リサイクルギャラリーり庵 石橋氏、他6名（町民1名、町内事業者4団体5名）

参加者	WGテーマに対する発言概要
リサイクルギャラリー り庵 （石橋氏）	<ul style="list-style-type: none"> リサイクルギャラリーを運営。買い取りはしておらず、「引き取り手が見つからないが、処分するのは勿体ない」と思っている方からお引き取りするという形としている。そのため、販売時の価格は安く抑えている。 桐箆笥のようなものは、修繕するだけで価値が跳ね上がる。そのままだと1万円程度の品が、金具部分を修繕できると60万円規模にまで跳ね上がる。そういった修繕が行える職人さんを抱えるのは難しいが、「修繕の練習の場」ともできないか。 大皿のような什器類も多い。大人数が集まるイベントで使えないか。 景観的な観点では、例えば陶器やガラス器の破片をコンクリートやタイルに埋め込むことはできないか。 当地の特性として、線量確認等、廃材をリサイクルすると言っても、法律・制度上のどこをクリアすれば何を持ってくることができるのかについて、解体関係者の専門性が必要。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ●意見・情報提供等 <ul style="list-style-type: none"> 着物をレジン加工して壁材化した活用事例 若年層の着付け離れ、着物離れの課題 室原地区の茶室を改修し、廃材やり庵の什器を使用希望 当地で廃材を建材利用するには放射線量確認要。数値によってはリサイクル不可。 環境省主体の解体事業では、廃材の他用途転用は困難 門等は地権者の許可のもとリサイクル使用は問題ないと思料。 処分に困るのは庭石。天然石は割りにくく、引き取り手不在。 浪江町を「環境フレンドリーなまち」として対外発信 ●提案等 <ul style="list-style-type: none"> 着物をリメイクできる方とのマッチング 服飾を学ぶ学生との連携（学校祭のファッションショー等）

c.スポーツを活用したまちづくりWG

※WG名は仮称

第1部 事業アイデアピッチ概要

■READY SOCIAL株式会社 代表 佐藤夏美 氏

- ・2025年3月に双葉郡を拠点とする女子サッカーチーム FUKUSHIMA WWW.（福島ウィーアー）を設立。
- ・選手やスタッフは、地域の企業で働きながら、まちづくり・雇用創出・教育支援などに積極的に関わっている。
- ・浪江駅西側地区では調整池の多目的利用が検討されており、私たちはこれに付帯するオンラインの医療モール複合型のクラブハウスの整備を目指している。
- ・健康促進やフレイル予防などに取り組み、グラウンド利用者だけではなく、地域の皆に喜ばれる施設にしたい。
- ・南相馬市の総合病院やJヴィレッジのクリニックが非常に混雑しており、オンラインの医療モールにより夜間対応を含め、地域の効率的な医療提供に貢献したい。
- ・未病対策に重点を置き、診療待ちの時間にグラウンドで運動するような相乗効果を生み出したい。
- ・オンライン診療の事例として、仙台駅構内にスマート医療クリニックがある。

■ミズノ株式会社 営業開発部担当課長 川久保浩之 氏

- ・当社はスポーツ施設を中心としたまちづくりを全国で取り組んでいる。
- ・スポーツ選手だけでなく、健康を通じて子どもからお年寄りの方まで集まる場づくりを選手が担い、当社はそれをバックアップしたい。
- ・様々な企業の健康経営の場として活用いただければと思う。



c.スポーツを活用したまちづくりWG 対話概要

■参加者 READY SOCIAL株式会社 佐藤氏、ミズノ株式会社 川久保氏
他9名（町民1名、町内事業者3団体4名、町外事業者4団体5名）

発言者	WGテーマに対する発言概要
READY SOCIAL (佐藤氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタジアム施設の多くは、自治体がハードを作り、後から中身を検討している。今回はソフトから議論し、スタジアム設計を考えていきたい。 ・ クラブハウスと医療施設をグラウンドの真横に建設したいと考えている。 ・ サッカーの試合以外にも、365日ライブや地域の祭りなどでも活用できるような施設にしたい。スタジアム来訪者どのように時間を過ごすのかをパターン化し、最も汎用性のある施設にしていきたい。 <p>地域の人々と今後議論をする一方で、地域のコミュニティーに所属しない人をペルソナとするかは検討したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設が防災拠点になるよう設計したい。東日本大震災の際には、衛生面を整えることが、心の安全にもなると感じた。 <p>電気がなくても使える防災コインランドリーを導入し、被災時には住民が利用できるなど、被災者目線の施設を考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人の方の医療対応をするうえで、F-REIと協力していきたい。 ・ 地域として医療と介護に力を入れているが、介護人材を外から呼ぶことで苦戦している。 <p>介護をやっている選手の呼びこみに取り組んでおり、女子サッカー界でもチームの価値が上がると考えている。</p>
ミズノ (川久保氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会社として現在指定管理も200ほどやっている。スポーツ施設が町の中心になると思っている。 ・ 例えばフットサルの施設を作ると、フットサル以外の集客を望めない。 <p>スポーツプラザに変更したことで、従来利用者が少ない時間であった昼の利用が増えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トレーニングルームが併設され、夏も冬も活動できる施設にしたいと思っている。 <p>トレーニングルームをF-REIの研究員に有料で貸し出すことが、大きな収入源になるのではないか。</p>
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ●意見、情報提供等 ・ 浪江町の人口規模に見合ったスタジアム収容人数 ・ サッカー以外の競技が可能な多目的施設化の必要性 ・ 町民のスポーツ施設低利用、短時間の軽い運動ニーズ ・ 緊急時の直接医療ニーズへの対応策 ・ 建設及び関係者間のコーディネートでの協力可能性 <ul style="list-style-type: none"> ●提案 ・ 子どもが競技中の保護者の滞在、消費を促進する付帯施設、行政や地元企業等と連携したソフト事業 ・ F-REI（福島国際研究教育機構）との連携、研究者のリフレッシュ環境の不足、運動需要への対応 ・ 足湯設置による集客増事例

d.モビリティWG

※WG名は仮称

第1部 事業アイデアピッチ概要

■株式会社マスヒロ 代表 増子博之 氏

- ・キックボードが普及する都内では若者が便利になった一方で、キックボードに乗れない高齢者にとっては不便なまま。
- ・真の意味でスマートなまちづくりには、その地域に住む人、訪れる人の子どもからお年寄りまで、それぞれのニーズを満たすモビリティが必要。そのために当社では様々なメーカーの代理店となり、自転車型や4輪タイプなど多種類のモビリティを地域の課題に合わせて提供できるようにした。
- ・無線を搭載したインカム付きヘルメットを活用し、360°動画撮影が可能な、安心安全な体験型モビリティツアーの仕組みで実用新案の取得と楽旅（ラクタビ）で商標登録。全国ではオーバーツーリズム対策として拡大中。福島県もホープツーリズム観光のコンテンツとして活用したい。
- ・檜葉町の事業で、大学生の夏休みのインターン受入の際の移動手段として電動モビリティを貸し出し中。
- ・浪江町では交通モビリティで誰もが便利で魅力的なまちづくりに貢献したい。共創会議でパートナーとして事業主体となっただけの方や観光、交通事業者の方などつながりたい。



d. モビリティWG 対話概要

■参加者 株式会社マスヒロ 増子氏、他10名（町内事業者5団体、町外事業者5団体）

参加者	WGテーマに対する発言概要
マスヒロ （増子氏）	<ul style="list-style-type: none"> モビリティ提供事業者と声をかけながら、キックボード・2輪・3輪・4輪を包括した代理店と、交通や観光の総合プラットフォーム事業（コンサルティング及びプロデュース）を行っている。未来に向けた街作りや観光造成で貢献出来れば幸い。 浪江町は各スポットが点になっており、それぞれを結ぶ交通手段がない課題がある。1種類のモビリティを提供するだけではなく複数種類のモビリティを提供しなければ幅広いニーズ（若者・高齢者、地元住民・観光客等）に応えることはできない。 電動キックボード利用についていわき市でアンケートを取ったところ、若い世代よりもむしろ中高年層での利用率が高く、車にキックボードを乗せて移動先で利用する事例もあったため、幅広いターゲットが検討し得る。漕がずに進む電動サイクルタイプも好評。 ラストワンマイルの移動を改善する解決策として、免許を返納した人でも乗れる電動4輪モビリティ（車いす仕様以外の屋根付き乗用車タイプ）の活用も選択肢に挙げられる。広い駐車スペースが不要なほか、1台50万円を目指しており費用も抑えられる。車体に広告を貼ることで地域資源の情報発信に活用することもできる。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ●意見、情報提供等 <ul style="list-style-type: none"> Web予約導入による認知拡大の必要性 双葉郡の移住定住支援を通じた移動手段の課題認識 南相馬市での都市型自走式ロープウェイ開発に基づくモビリティ知見 自動運転のリスクアセスメント支援に関する提携可能性 電動キックボードの危険性を踏まえた安全面コンサルティングの提供 町内は各スポットを点ではなく線でつなげる必要性 バス・電動キックボード・電動車いす等複数のモビリティを組み合わせによる最適化 ラストワンマイルの交通課題と、高齢者を対象とした移動補助モビリティ提供の必要性 レンタカー、電動キックボードのレンタル事業を展開中。情報発信の課題認識。 電動キックボードを利用者の多くは観光目的。冬場は利用減。宿泊施設までの移動への潜在需要。 駅前整備進展による将来的なモビリティ需要増加の見通し ●提案 <ul style="list-style-type: none"> 中距離移動の利便性向上に向けた自動運転バス導入と周回コース設定による需給調査

e.コミュニティFM局を活かしたまちづくりWG

※WG名は仮称

第1部 事業アイデアピッチ概要

■株式会社いのちとぶんか社 取締役 葛西優香 氏

- ・防災を軸に樋渡・牛渡地区のコミュニティづくりに取り組んでいる。本提案は地域住民の意見・アイデアによるもの。
- ・地元住民、移住者、研究者等の各コミュニティがどうすれば分断せずに無理のない交流ができるかが課題。そこで隣のコミュニティの話をのぞき見するような感覚で聞くことができるコミュニティFM局の創設を検討中。
- ・目指すのは「多世代・多文化共生ラジオ局」。阪神淡路大震災の際、コミュニティFM局が多言語で放送したことで、外国人の住民に情報を届ける役割を果たした。インターネットでどこからでも視聴できるようにして、避難している町民への情報発信、浪江町の暮らしに興味がある方の移住促進に貢献したい。
- ・総務省や関係機関への相談、サンプル番組づくりなど設立に向けて準備中。FM局開設に必要な無線技術士も既にチームに加入済み。
- ・高校生が地元企業にインタビューをするコーナーを設ける予定。子どもの地域理解、地元就職にも寄与するような教育コンテンツをつくりたい。
- ・通信技術と温かさを融合したコンテンツづくりを皆さまと考えていきたい。



e.コミュニティFM局を活かしたまちづくりWG 対話概要

■参加者 株式会社いのちとぶんか社 葛西氏、他4名（町内事業者2団体3名、町外事業者1団体1名）

参加者	プロジェクトに対する発言
いのちとぶんか社 （葛西氏）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラジオの価値・強みを明確にする必要があると考えており、例えば耳だけで聞けることや、災害時でも聞けることが挙げられる。 ・ 浪江町には防災無線があり、昼頃に浪江創生小学校の校歌などが放送されている。そこから会話が発生することがあり、実際に町民が放送を聞いていることを実感している。また双葉町の駅西住宅でも情報が回っておらず、「コミュニティFMがあればよい」との意見を耳にした。また、高齢者世代には町の情報が行き届いていないことがあり、非常にもったいないと感じている。 ・ 会社の収支について、年間運営費は2,000万～3,000万程度で考えている。音の発信機については、中古品のリサイクルを考えている。また復興の文脈でマッチしているため、復興庁による補助金も利用も検討したい。 ・ F-REIの研究者としても働いているが、情報を発信することの大切さも感じており、F-REIとしてラジオ番組をつくれればとも考えている。コミュニティFMとして地域の人とつながっているからこそニッチな情報を得られる。2026年の1月にサンプル番組の配信を考えているが、FREIの研究者紹介など、コーナーを持つような選択肢もあるのではないかと。ただ、放送において大事になるのは、専門用語ばかりで分からなくなってしまうこと。パーソナリティを配置し、内容をかみ砕いて伝えることが重要。そこから、F-REIへの誘客・交流に活かせるのではないかと。 ・ 車内での放送について連携すれば可能だが、その分運営費がかさむ。そのためにスポンサーが必要になる。ラジオは基本的に情報を貰う側（ラジオ局等）が、情報を渡す側（新聞社等）に金銭を払う。 ・ 放送時間としては、昼間の帯番組から開始できれば理想、一部夜の時間に企業枠や個人枠の設置を検討している。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ●意見、情報提供等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 停電時にも受信可能なラジオの防災価値 ・ 耳だけで情報を取得できる利便性、高齢者への情報伝達手段としての有効性 ・ 情報発信などにおける協力可能性 ●提案 <ul style="list-style-type: none"> ・ 町広報番組の制作と委託料による運営モデル ・ 小規模コミュニティFMならではの地域密着情報の提供（飲食店の空席状況、スーパーのタイムセール情報等） ・ 個人による番組枠購入・発信という参加型放送

第2部（15:40～16:40頃）個別事業テーマのワーキンググループ（WG）の進め方

形式

初実施！

- 人数の制限はなく、希望先のテーマに参加可能とします。
- 各テーマにつきの1つのグループで議論します。
- 事務局から各グループに記録係を1名配置します。
当日の主な議論をまとめ、振り返りや次回以降新たに加わる方向けに活用します。
- 今回をきっかけにWGの活動が継続され（第3回コミュニティ部会、または部会以外の場での自主開催）、今後の展開として具体のプロジェクト組成に発展することを想定しています。

初回ワーキンググループで話し合う内容

仮リーダーを中心に、以下をポイントにして自由に議論していただきます。

- 次頁の5つのポジションのうち、自身（自社）がどの立場でWGに関われそうか、意識して他のメンバーに共有しましょう。
- テーマに関連して、自身（自社）が貢献できそうなアイデアや技術、役務や熱意、ニーズなどについて情報交換しましょう。
- （時間があれば）次回以降のWGで特に深めたい内容や、どのような方を新たにWGに呼び込んだら良いか意見交換しましょう。

共創会議では共創の内容と立場(立ち位置/ポジション)を明確化

- (1) 地域の課題やニーズ情報の提供者
地域の経営資源や情報の提供者
事業アイデア提案への協力や参画



- ・〇〇で困っています!
- ・地元で有名な△△をもっと活用して欲しい
- ・□□があったら常連になります!
- ・そのアイデアが事業化したら働きたい

- (2) まちづくりや事業に役立つ研究や技術
シーズを持つ方(F-REI等研究機関と関係者)



- ・実用化したい、活用して欲しい技術があります!
- ・〇〇の研究をしているか需要があるか聞きたい!

- (3) 地域での事業や活動の**アイデアの提案者**
地域での事業や活動の**実施主体**
地域の施設などに入居する**テナント**



- ・自分のアイデアを一緒に形にしてくれる方に出会いたい
- ・□□の運営者として手を上げたい!
- ・△△の店舗を出店したい!
- ・〇〇の事業を浪江で行いたい材料の供給を受けたい!

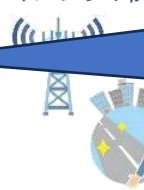
- (4) 地域での事業や活動の支援者
アウトソーシングの事業者
共創やマッチングの支援者



- ・〇〇の納品、運送、清掃サービスの提供ができます!
- ・地域事業者を紹介する広報やウェブデザインができます!
- ・地域とのビジネスマッチングのサポートができます。

- (5) まちづくり(施設やインフラ)の
技術やアイデアの提案者
設計や開発、建築、不動産の関係者
エリアマネジメントなどの関係者

インフラや関連施設



- ・地域のエネルギーマネジメントの技術があります!
- ・〇〇の整備が得意です!
- ・まちづくり(インフラ)に活かせる新しい技術や製品
アイデアがあります!